

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

－ 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 －

平成30年4月17日に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の川崎市の調査結果をまとめました。なお、本調査結果の詳細については、教育委員会で分析した後、9月上旬に公表する予定です。

1 実施の状況

調査を実施した川崎市立学校は166校で、児童生徒合計約20,640人が参加した。

内 訳：小学校 113 校 中学校 52 校 特別支援学校 1 校（小学部・中学部）

参加人数：小学校調査 約 11,560 人 中学校調査 約 9,080 人

※ 小学校は第6学年、中学校は第3学年が対象

※ 調査の種類により調査人数は若干変動

2 教科に関する結果の概要

(1) 教科に関する調査の平均正答数（問）と平均正答率（％）

平成 30年度	小学校調査									
	国語				算数				理科	
	A(12問)		B(8問)		A(14問)		B(10問)		(16問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)
川崎市	8.6	72	4.5	57	9.2	66	5.5	55	9.7	61
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60
差	0.1	1	0.1	2	0.3	2	0.4	3	0.1	1

平成 30年度	中学校調査									
	国語				数学				理科	
	A(32問)		B(9問)		A(36問)		B(14問)		(27問)	
	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)	正答数 (問)	正答率 (%)
川崎市	24.6	77	5.6	63	23.8	66	6.8	49	17.9	66
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66
差	0.3	1	0.1	2	0	0	0.2	2	0	0

A：主として「知識」 B：主として「活用」 理科：「知識」「活用」

(2) 全体の傾向

本市においては、上記（1）の20項目のいずれの平均正答率も全国に対して±5ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差の認められないとする範囲内であるので、本市の結果は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

(3) 各教科の概要 (◇：よい状況と考えられる点 ◆：課題があると考えられる点)

【小学校 国語】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域等の平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題、B問題ともに全ての領域において全国の結果を上回っている。

話すこと・聞くこと ◇相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと

◇話し手の意図を捉えたり、質問の意図を捉えたり、計画的に話し合うために司会の役割について捉えたりすること

◆話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること

書くこと ◆目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くこと

読むこと ◆目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと

◆目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくこと

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇日常生活で使われている慣用語の意味を理解し、使うこと

◆主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと

【小学校 算数】

「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の領域ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題では「数と計算」「図形」「数量関係」において全国の結果を上回っているが、「量と測定」については下回っている。B問題では、全ての領域において上回っている。

数と計算 ◆小数の除法の意味を理解すること
◆折り紙の枚数が足りる理由を、示された数量を使って根拠を明確にして記述すること

量と測定 ◇異種の二つの数量のうち、一方の量がそろっているときの比べ方を理解すること
◆単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解すること

図形 ◆円周率の意味について理解すること
◆直径の長さや円周の長さの関係について理解すること

数量関係 ◆メモの情報について、棒グラフの着目しているところを言葉や数を用いて記述すること。
◆棒グラフと帯グラフから読み取ったことを、適切に判断すること。

【小学校 理科】

調査問題の趣旨・内容ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、知識・技能の問題では下回っているが、活用に関する問題では上回っている。また、区分・内容ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると「物質」「エネルギー」「地球」は上回っているが、「生命」は下回っている。

物質 ◇実験方法から得られた結果を分析して考察し、海水と水道水を区別すること
◆物を水に溶かした時に、合わせた重さが全体の重さになるという知識を、他の場面の食塩水に適用して考察すること

エネルギー ◆乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わるという知識を、実際の回路に適用して、モーターが反対に回る回路を選ぶこと
◆太陽の一日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用すること

生命 ◇野鳥のひなの様子を観察するために、安全に留意し、生物を愛護する態度をもって観察方法を構想すること

◆人の腕が曲がる仕組みについて、模型に適用すること

地球 ◆流れる水の働きについて、行った実験結果を基に分析して考察し、より妥当な考えをつくりだし、表現すること

【中学校 国語】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域等の平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」において上回っている。B問題では「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において上回っている。

話すこと・聞くこと ◇質問の意図を捉えたり、展開に注意して聞き、必要に応じて質問したりすること
◆全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すこと

書くこと ◇段落相互の関係に注意してわかりやすい文章にしたり、事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成したりすること
◆目的に応じて文章を読み、的確に伝わるように内容を整理して書くこと

読むこと ◇場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することや、段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てること
◆目的に応じて文章を読み、内容を整理すること

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉えること
◆語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと

【中学校 数学】

「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の領域ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、A問題では「関数」において上回っているが、「数と式」「図形」「資料の活用」については下回っている。B問題では、全ての領域において上回っている。

数と式 ◇簡単な比例式を解くこと
◆計算結果が4の倍数になる理由を、構想を立てて説明すること

図形 ◇円柱の見取図から、その円柱の投影図を読み取ること
◆条件を変えて発展的に考えた場合について、証明の一部を書き直すこと

関数 ◆反比例について、グラフと表を関連付けて理解すること
◆列車アが通ってから列車エが通るまでの時間について、グラフから求める方法を説明すること

資料の活用 ◆多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解すること
◆不確定な事象を起しやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明すること

【中学校 理科】

調査問題の趣旨・内容ごとの平均正答率を全国の結果と比較すると、知識・技能の問題では下回っているが、活用に関する問題では上回っている。また、活用に関する問題を4つの学習活動に分類した平均正答率を全国の結果と比較すると、「構想」「分析・解釈」「検討・改善」においては上回っているが、「適用」については下回っている。

知識・技能の問題

知識・技能 ◇食塩水中の食塩と水の量を基に、濃度の低い食塩水を指摘すること
◇原子記号の表し方を理解し、アルミニウムの正しい原子記号を選択すること
◆オームの法則を使って、抵抗の値を計算すること
◆濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量%濃度のものを指摘すること

活用に関する問題

構想 ◆実験結果から生まれた蒸発と湿度に関する新たな問題の解決に向けて、その原因を指摘すること
◆ガスバーナーの空気の量を変えて金網につくススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘すること

分析・解釈 ◇実験の結果を分析して解釈して、豆電球と豆電球型のLED電球の点灯の様子と電力の関係を指摘すること

適用 ◇無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用すること
◇初期微動継続時間の長さや震源から距離の関係の知識と音の速さに関する知識を関連付けて活用すること

3 児童生徒質問紙調査結果の概要

学習に対する興味や授業の理解度				
○算数・数学の授業の内容はよく分かる。	小学校	84.0%	中学校	74.2%
○理科の授業の内容はよく分かる。	小学校	89.8%	中学校	71.4%
規範意識、自己有用感等				
○学校の規則を守っている。	小学校	91.4%	中学校	93.6%
○自分には、よいところがあると思う。	小学校	87.3%	中学校	80.0%
○将来の夢や目標を持っている。	小学校	84.6%	中学校	70.3%
○人の役に立つ人間になりたいと思う。	小学校	95.4%	中学校	93.7%
学習習慣等				
○学校の授業時間以外の勉強時間。(※)				
・ 2時間以上	小学校	39.6%	中学校	42.8%
・ 30分以下	小学校	13.3%	中学校	14.6%
○家で、自分で計画を立てて勉強している。	小学校	66.4%	中学校	49.1%
地域や社会に関わる活動の実施状況等				
○地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある。	小学校	67.0%	中学校	59.1%
○今住んでいる地域の行事に参加している。	小学校	52.5%	中学校	38.6%
主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等				
★5年生（中学校1，2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。	小学校	80.7%	中学校	74.7%
○5年生（中学校1，2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。	小学校	66.6%	中学校	58.5%
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	小学校	80.5%	中学校	76.7%
基本的な生活習慣等				
○朝食を毎日食べている。	小学校	93.8%	中学校	88.7%
○家の人と学校での出来事について話をしている。	小学校	81.6%	中学校	73.2%

★ 新規項目

- ・ 数値には「どちらかといえば」を含む
- ・ (※) 印は「普段（月～金）1日当たりの時間」

◎今後の対応

教育委員会といたしましては、調査結果から明らかになった児童生徒の学習や生活の状況について学習指導要領改訂の趣旨等を踏まえて分析し、教育施策の充実を図ってまいります。併せて、各学校の全国学力・学習状況調査を活用した児童生徒の学力向上に向けた取組の改善について、学校と保護者・地域が一体となって推進していけるよう支援してまいります。また、各学校において調査結果報告書を作成し、保護者・地域に調査結果及び教育指導の改善等に関する情報を提供いたします。

【担当】

総合教育センター
カリキュラムセンター 担当課長
電話 844-3730